

認知症の人の対応について

令和4年9月1日 社会福祉士A

皆様、認知症の人との対応の仕方について、ご存じでしょうか？

その対応を誤ると認知症の進行を加速させると共に対応者に危害が及ぶこともあります。認知症にも**アルツハイマー型**の徐々に進行するものや普段は正常なのに時々急に、発症を繰り返す脳血管の疾患から来る**まだら認知症**と言われるものがあります。一番対応に苦慮するのは、まだら認知症で何せ突発的に急に症状を呈するので周囲もあわててしまいますね。

〔私が遭遇したケースの対処例〕

先日散歩からの帰り路、玄関前でご夫婦が揉められている場を通りかかる。単なる夫婦喧嘩だろうとその場を通り過ぎようとする時奥さまが必至の形相で助けを求めて来られたので、お話を聞いてみると「今朝、トイレに行こうとしているご主人にそこは違うと声掛けすると急に怒り出すとともにお前誰や？と言い出し、玄関前まで引きづって来られ、家に戻ろうとしても入れてくれない。パジャマのままだし携帯も持っていないので、身内にも連絡できない。とりあえず中に入れてもらえるように主人に話してくださいませんか」と云う事だったので、ご主人に聞くと「こいつは勝手に家に入って来た知らない奴なので出て行けと追い出している所です」と答える。自分の奥さまの顔も忘れてしまった様です。

そこでご主人を落ち着かせねばと話題を変え近所話などをして、とにかく奥さまを家に入れるタイミングを見て何とか家に入らせることが出来ました。奥さまには、「ご主人は、出て行けと言っているから逆らわず、着替えや携帯を持ち出して出て来て身内の方に連絡して直ぐに来てもらうように」とアドバイスする。

暫くして、奥さまが普段着に着替えて出て来るとその姿を見てご主人曰く「これがうちの家内です」とやっと奥さんを認識されたようで一件落ち着きました。

しかし、奥様の話を聞いていると時々ご主人が認知症の発作を起こされた際に度々暴力を受けておられるようなので、このまま放って帰ってしまうことに一抹の不安を感じたので連絡が付いた身内の方が来られるまで、その後もご主人と色々昔話などをしていました。まさか自分が、このような対応をしなければならなくなるとは思っても見ませんでした。が、社会福祉士として認知症について少し書物や同僚より聞いて知っていたことが役に立った次第です。

前段が長くなりましたが、ここから本題の認知症の人への対応を下記に記述します。
今回のケースも奥さまがその対応の仕方について、十分に理解されていれば、防げたかもしれません。

ご主人は、『まだら認知症』を患っておられるようです。

まだら認知症とは、名前から認知症の種類だと勘違いされることが少なくないのですが、アルツハイマー型などのように少しずつ認知機能全体が低下することで物忘れが徐々に目立ってくるのではなく、急に重い症状が出て、今食べたことを忘れてしまったりするにもかかわらず、本人には理解力があって、しっかりとした受け答えができるといったケースがよくあるところです。

そしてその症状の波は一日の時間の経過の中でも大きな差があることもあり、朝はしっかりとんでも受け答えもできていたのに午後になったら症状が重くなって身の回りの事さえできなくなってしまうといったように、むらがあることが珍しくありません。

〔まだら認知症の症状が現れた時の対応について〕

症状が現れた場合の対応で留意する一番大切なことは、『絶対に否定（逆らわない）をしないで誘導すること』が肝要です。

言い換えれば、上手に相手の意識の世界に合わせながら、上手に現実の世界に戻す行動を取ってあげれば、本人は納得します。

今回の私が遭遇したケースは、注意されたことで怒りで錯乱状態に陥り、奥様さまとの認識が出来なくなり追い出そうとしたことだけで済みましたが、一步間違えると最悪のケースでは、側にある刃物や器物で攻撃されるたりする場合もあるので十二分の注意が必要です。

〔認知症全般の人に共通する対応について〕

認知症を患ったからと云って本人は、自分へのプライドを捨てていません。しかし自らの能力に大きな不安をもっています。そこを否定されるのは、非常につらいことであり、精神の不安定を招いてしまいます。

従って、絶対にやってはいけない対応は、以下の7つです。

1. 叱る
2. 命令する
3. 強制する
4. 子ども扱いする
5. 行動を制限する

6. 役割を取り上げる

7. 何もさせない

認知症の人は実際のやり取りや事実関係は忘れてしまっても、その時の感情はしっかり覚えていてます。家族から注意を受けた時の「怒られてとても嫌だった」というネガティブな感情はいつまでも残っているのです。

また、認知症の人は認知機能の低下でできないことがたくさんある一方で、体で覚えた技術（料理や裁縫など）は忘れにくいようです。

ですから、役割を取り上げたり行動に制限をかけすぎたりすると、「意地悪をされている」「嫌がらせだ」と受け止められ、精神的な苦痛を与えることになってしまいます。

対応のまとめとしては、「本人が何を求めているのか」を考え、本人がやりたいことができるように支援する認知症の人が穏やかに暮らせる環境を整えることです。

以上、認知症はいつだれが罹るかもしれない病気ですのでご自分だけでなく、ご家族と共にお読みいただければ幸いです。

活用を願って投稿しながら矛盾しますが、本稿が皆様には必要なく閲覧ただけでお役に立てなかった方が有難いことです。 そうあることを祈って筆を置きます！

以 上